

特集 お城まつりで「ジェンダー・フリー展」を開催

「ジェンダー・フリー展」では、無料のコーヒーマーケットとともに、登録団体がそれぞれの活動を紹介する展示を行ったり、訪れた人と楽しいひとときを過ごしたりしました。寄せられたご意見の中には来年に向けて改善すべき点も含まれており、実り多い機会となりました。

17,18日 パネル展示あれこれ



ウィングスは、モンゴルの生活の様子を身近に感じられる写真や、「香川県女性友好の翼」で訪問したデンマーク、スウェーデンのジェンダー・フリー問題、環境問題、福祉問題などについて、パネル展示をしました。ご覧になった方々が、それぞれの立場で考えてくださればと思います。

丸亀「地球村」は、地球環境を守るための講演会や、ピースパレード、アフガン難民支援基金活動などの写真を展示しました。来場者の中には、「みんな楽しそうですね」と声をかけてくださる方や、「Stop The War」と書いた意志表示カードを買って、早速胸につけてくれる方がいました。

新日本婦人の会丸亀支部は、「親子リズム小組」や「太極拳小組」などの小組活動を紹介するポスターを展示しました。部屋を訪れた七尾市文化協会の方が、幅1メートル、長さ2メートルもあるポスターに描かれた多彩な活動を見て「すばらしい」と感心。また、毎週この部屋で描きためた絵手紙も、パネルいっぱい展示しました。

学校図書館を考える会・丸亀は、子どもたちの大好きな学校図書館の様子を、写真とイラストで紹介しました。今年度から市内3小学校に司書が配置されたほか、人のいる学校図書館が増え、子どもの読書と学びを支える活動が一層充実。丸亀っ子の豊かな育ちのために活躍中です。

17日 フリー・トーク

この日は、恒例のまるみなフリー・トークを開催。今回のテーマは、「恋愛とジェンダー」でした。ジェンダー・フリーだと恋愛が成り立たないってホント？から始まった楽しいおしゃべりで、あっという間の2時間でした。ジェンダー・フリーって女も男もなくなるかと誤解している人がいるんですね。

17,18日 図書展示

ジェンダー・フリーに関する絵本から論文集まで、24冊のまるみなおため図書展示し、人気投票を行いました。手に取って読みふける方、特別貸出を利用する方もいて、好評を博したようです。人気投票の結果は次のとおり。



- 1 『妻の王国』
 - 2 『男は女より頭がいいか』
 - 3 『パパのカノジョは』
- 「介護とジェンダー」
「聞き捨てできない女のセリフ」

18日 絵手紙体験

新日本婦人の会丸亀支部が開催した絵手紙体験会。飛び入りで参加した4人の体験者は、楽しそうに、かつ神秘的な面持ちで絵手紙を仕上げ、思わぬ収穫に喜んでいました。



18日 グループ定例会

まちづくり女性会議OG会は、ジェンダー・フリー展に併せて総会を行いました。発足6年目にして初めて参加したメンバーがいたこともあって、大いに盛り上がったのはよかったのですが、企画していた「DVについて話し合おう」の時間が取れなかったのは残念でした。



訪れた人の声

- ・展示を見せていただき、ゆめネットワークの各団体の活動内容がよく分かりました。
- ・お城まつりにゆめネットワークが参加できてよかったです。ゆめの部屋がジェンダー・フリーについて市民の語り合える場所になるといいです。
- ・ジェンダー・フリー関連図書の展示を見せていただきました。今回の展示には個人所有の本もあったようですが、良い本はゆめの部屋の蔵書に加えて、常備してほしいです。
- ・広い場所でのコーヒーマーケットでゆっくりできました。

広げていきたい ジェンダー・フリー授業



城南小学校が「丸亀市男女共同参画モデル校」の指定を受けて約1年がたちました。その間、保護者や子どもたちにアンケートを取るなど、地域ぐるみで取り組みを重ねてきたそうです。

6月13日、4年生のクラスでジェンダー・フリー研究授業があるので、参観してきました。

「女の子だから空手をしてはいけない、というのはおかしいよ」「男の子でも髪の毛が長くてもいいんだよね」。子どもたちの活発な意見が飛び交いました。

ところが、「女の子は赤、男の子は青というのはおかしいよ」の発言があった時のことです。子どもたちの目は一斉に、窓際の歯磨き用コップに注がれました。そこには、男の子用の青いコップと女の子用の赤いコップが整然と……。まだまだ気づかずに見過ごしている、不必要な男女の区別があるようです。

今回の授業を担当した先生は、城南小学校に来て、「ジェンダー」という言葉の勉強から始めたそうです。モデル校だけでなく、市内のすべての学校でこういった取り組みをしてほしいものです。

平成15年度第1回ゆめネットワークセミナー

映画試写会 「住井すゑ 百歳の人間宣言」

6月29日、ゆめネットワークセミナーを生徒学習センターで開催しました。記録映画「住井すゑ 百歳の人間宣言」の試写会で、43人が参加しました。

住井すゑは、被差別部落を舞台に差別と闘う人間像を描いた大河小説「橋のない川」で知られています。彼女がこの小説を書き始めたのは50代になってからで、第7部が完成したのは90歳が近かったそうです。また、映画の中では、映画監督の山田洋次さんや放送タレントの永六輔さん、作家の野坂昭如さんといった、彼女と関係の深かった人物が、まるで彼女がそこにいるか

トピックス 「香川県女性友好の翼」に参加して 自らの行動が社会変革に
津森町 鉄川恵子さん

平成14年10月19日から28日までの10日間、「香川県女性友好の翼」の一員として、デンマーク、ドイツの行政機関や施設を視察した。デンマークでの男女共同参画の現状は、議員も職場の管理職も約半数を女性が占め、政治や国際問題にも関心が高く、女性自らの行動が政治にも反映されていることを実感した。また、デンマークでは、24時間



左側が鉄川さん

体制の保育施設、ドイツでは3年間の育児休暇制度があり、両国ともに子育て中の女性の就業体制が整っていた。コペンハーゲンには世界唯一の女性だけの労働組合があり、労働条件の改善や職場での身体的・精神的問題の解決に力を注いできた。しかし反面、離婚、婚外子出生の増加による家族形態の変化など、新たに抱える問題があることも知った。

訪問回ではこういう先進的な取り組みがごく普通の一女性から始まって大きなうねりとなってきたと聞き、男女共同参画社会実現に向けて一人一人の努力の大切さを改めて感じた。



のような存在感で思い出を語っていたのが印象的でした。

参加者のアンケートには、「信念の人、志の人、闘いの人、人権の獲得と平等の実現のために命をかけて闘った人」「老いるということもまたすばらしいことだと住井さんを見て思った」「日本にこのような女性がいたことが誇らしい」などと書かれていました。

子どものころから差別に敏感だった住井すゑの生き様を描いた映画の上映は、ジェンダーに敏感になることを目指している「ゆめネットワーク」にぴったりのセミナーでした。